

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32809

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2019

課題番号：18K17585

研究課題名（和文）ICTを活用した助産師の心理支援教育プログラムの開発および技術検証

研究課題名（英文）Evaluation of e-learning education on perinatal psychological support for midwives

研究代表者

篠原 枝里子（Shinohara, Eriko）

東京医療保健大学・看護学部・助教

研究者番号：90804469

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、助産師および周産期ケアに従事する看護師・保健師に対し、周産期のメンタルヘルスのアセスメント知識および心理支援に関する動画教材を使用し、心理支援に関する共感的コミュニケーション能力に及ぼす効果をランダム化比較試験を用いて検証した。アウトカムの共感的コミュニケーション能力に関し、知識と技術の両側面を測定し評価した結果、介入群では技術と知識両方の共感的コミュニケーション能力が対照群に比べて有意に上昇した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、動画教材を用い専門職の周産期メンタルヘルスに関する心理支援能力として、共感的コミュニケーション能力の向上に関し検証を行った結果、介入群において有意に共感的コミュニケーション能力が上昇した。卒後にフォーマルな専門職教育が必要と考えられる中、動画教材は汎用性が高く、効率的に大多数に教育を可能とすることができると考える。また、技術の評価に動画を用い心理支援能力を測定することができたことは質検証につながる。助産師による心理介入は産後の抑うつ状態やボンディング障害の低減に関し、一定の効果があることが予測されることから、専門職の心理支援能力の向上は今後対象者支援への一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：In this study, a randomized controlled trial evaluated the impact of educational e-learning programs on midwives, nurses, and public health nurses involved in perinatal care for empathic communication skills. This study evaluated two outcomes of knowledge and verbatim skills for empathic communication skills. The results showed that both empathic communication skills were significantly higher in the intervention group than in the control group.

研究分野：周産期

キーワード：周産期メンタルヘルス 心理支援 共感的コミュニケーション能力 助産師 ICT RCT 助産師教育

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

周産期における妊産婦・育児期の母親へのメンタルヘルス支援の重要性は、国の施策においても重要な課題として位置づけられている。既存研究では支援提供者である助産師への心理支援教育の実施や実践報告について報告されているものの、教育を受けた医療職者の心理介入の技術の質は不明であり、その評価は行われていない。対象者に身近で接しケアを行う助産師のメンタルヘルスリテラシーとして知識の向上は元より、介入ケア技術の習得、またその質の担保、一定の水準のレベルの確保は課題である。また、そのような教育は主に研修会でされており、実施回数や受講者のスケジュールの制約が有り拡大しない現状がある。

2. 研究の目的

本研究では、助産師および周産期のケアに従事する看護師・保健師に対し、ICT を活用した動画教材を用いた周産期メンタルヘルスのアセスメント知識と心理支援技術に関する教育を実施し、受講者の共感的コミュニケーション能力に及ぼす効果を検証することを目的とした。また、アセスメント知識への影響、アセスメント知識および心理支援に対する態度と自己効力感への影響を副次的に検証した。

3. 研究の方法

115名の助産師・看護師・保健師を対象に、ランダム化比較試験を実施した。介入群(n = 58)は周産期メンタルヘルスに関するアセスメント知識と心理支援技術に関する動画教育を受講(各90分間)、対照群(n = 57)はアセスメント知識のみに関する動画教育(90分間)を受講した。プライマリアウトカムの共感的コミュニケーション能力に関し、介入前後、3か月後に技術および知識の両側面の能力を測定し評価した。共感性コミュニケーションの技術は、研究用に作成した支援者とクライアントの臨床面接場面の動画を用い記述式テストを行い、Empathic Understanding in Interpersonal Processes (以下 EUIP) (Carkhuff, 1969)にて客観的に評価した。EUIP の評価は専門家が行い、サンプルの20%を用いて評価者間信頼性確保を行った($r = .80$)。共感性コミュニケーションの理解については選択肢式テストの正答点にて評価した。副次的アウトカムである周産期メンタルヘルスの知識については選択肢式テストで評価し、周産期メンタルヘルスのアセスメント知識および心理支援技術に対する態度と自己効力感については Counselor Response Form (Kirchberg et al., 1998)、リッカートスケールを使用し測定した。分析方法は二元配置分散分析を用い、SPSS ver.26 を使用し分析した。

4 . 研究成果

(1) 結果

共感性コミュニケーションの技術において、主効果の群間($F(1) = 4.302, p < .05$) および回答時期 ($F(1) = 21.967, p < .001$)、交互作用($F(1,1) = 25.157, p < .001$)で有意であった。共感性コミュニケーションの知識においても、主効果の群間 ($F(1) = 32.364, p < .001$) および回答時期 ($F(1) = 32.364, p < .001$)、交互作用 ($F(1,1) = 40.269, p < .001$)ともに有意であり、いずれも介入群で有意に上昇した。共感性コミュニケーション技術および知識は中程度の相関がみられた ($r = .409, p < .001$)。アセスメント知識に関しては群間の差はなかったが、介入後に両群で有意に上昇した。態度・自己効力感に関して有意差はなかった。

(2) 考察

動画教材を使用した心理支援教育は共感性コミュニケーションの技術および知識に効果的であった。また、共感性コミュニケーションに関する理解と、技術とは異なる能力であることが推測された。

(3) 結論

本研究では、動画教材を用い専門職の周産期メンタルヘルスに関する心理支援能力として、共感的コミュニケーション能力(技術および知識)の向上に関し検証を行った結果、介入群において有意に共感的コミュニケーション能力が上昇した。卒後にフォーマルな専門職教育が必要と考えられる中、汎用性の高い動画教材での心理支援教育が効果的であったことにより、効率的に大多数に心理支援教育を可能とすることができると考える。また、評価に動画を用い心理支援能力を測定することが出来たことは、今後の技術の質レベルの検証・担保にもつながる。助産師による心理介入は産後の抑うつ状態やボンディング障害の低減に関し、一定の効果があることが予測されることから、専門職の心理支援能力の向上は今後対象者支援への一助となることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----